

平成 25 年度 学校経営計画及び学校評価

1 めざす学校像

「自ら気づく人を育てる」を目標に掲げ、「茨西 PRIDE」のもと生徒の志をカタチにするため、家庭と地域を巻き込んだ教育活動を展開することで茨西ブランドを確立する。

1. 確かな学力を基礎に、志高い進路目標を実現する生徒を育成し、中堅大学に進学実績を持つ学校をめざす。
2. 「使える英語プロジェクト」事業を核に、指導法を研究して生徒の英語によるコミュニケーション能力を育成し国際社会に通用する人材を育てる。
3. 生徒会活動・部活動等の充実を図り、規律規範意識を高め、健康で心豊かな人間を育成する。
4. 学校と家庭・地域をつなぐ活動を通して、生徒自身の誇りと母校愛を醸成するとともに、社会を創っていく態度を涵養する。

2 中期的目標

1 確かな学力の育成

- (1) 生徒の確かな学力の育成と向上のために、興味・関心を引き出せるように授業の改善・充実に努める。
ア 生徒による授業評価と保護者や中学生による授業公開のアンケート結果を効果的に活用するとともに、教員相互の授業見学を組織的に取り組み、ICTを活用した授業の目的を明確し、機器をいかに使いこなし教育効果をあげるかについても研究をすすめる。
※中学生向け授業公開アンケートの教員のわかる授業への取り組み評価(平成24年度そう思う58%、ややそう思う36%)を、平成27年度には、そう思うを70%以上にする。
※生徒向け学校教育自己診断の授業でのコンピュータ等の活用(平成24年度63.0%)を、平成27年度には70%以上にする。
※生徒向け学校教育自己診断の他の先生が授業を見学に来る(平成24年度61.4%)を、平成27年度には70%以上にする。
- (2) 「使える英語プロジェクト」事業を基に、英語によるコミュニケーション能力を育成する。
※校内での英語スピーチコンテストを全学年で取り組む。
※海外修学旅行を実施(平成26年度グアム修学旅行予定)し、生徒向け学校教育自己診断の修学旅行の満足度(平成24年度76.4%)を、平成27年度には80%以上にする。
※国際理解に関する取組(平成24年度生徒51.6%、保護者66.9%)に対する肯定的回答を、平成27年度には70%以上にする。

2 志高い進路目標を実現する生徒の育成

- (1) 自分の将来を具体的に設計し、その実現に積極的に取り組むという将来のキャリア形成を自ら考えさせ選択させる能力を育成する。
※進路ガイダンスの更なる充実を図り、生徒向け学校教育自己診断の進路指導に関する項目の肯定率(平成24年度平均70%)を、平成27年度には85%以上にする。
※「大学の向こうにある社会」を意識させるプログラムを提供できる大学との新たな連携事業を展開する。
※教育産業の講習参加者数(平成24年度 1年16名・2年30名・3年80名 計126名)を、平成27年度には1年30名・2年50名・3年120名 計200名をめざす。

3 安全安心で魅力ある学校づくり

- (1) 基本的な生活習慣の確立と定着を図ると共に生徒の規範意識を醸成する。
ア 挨拶ができる、遅刻をしない、通学マナーの向上など基本的な生活習慣の確立と規範意識の醸成に努める。
※生徒向け学校教育自己診断の生徒指導に関する肯定率(平成24年度57.5%)を、平成27年度には75%以上にする。
※生徒向け学校教育自己診断の教育相談に関する満足度(平成24年度51.1%)を、平成27年度には70%以上にする。
- (2) 生徒会活動・ホームルーム活動・部活動・学校行事等の充実を図り、自己有用感の醸成やコミュニケーション能力の育成を図る。
※生徒向け学校教育自己診断における学校行事・部活動に対する満足度(平成24年度68%・64.3%)を、平成27年度には80%以上にする。
※学校教育自己診断の学校へ行くのが楽しいの項目における肯定率(平成24年度生徒77.6%、保護者79.5%)を、平成27年度には85%以上にする。
- (3) 学習環境の整備に努めるとともに、交通安全指導・通学マナーの更なる充実を図る。
ア 耐震工事(平成25、26年)に伴う校舎の使用制限に対して、生徒が安全で安心できる学習環境の維持に努める。
イ 生徒・保護者・地域住民が連携した交通安全指導を関係機関の協力の下、年1回実施する。
※生徒向け学校教育自己診断の学習環境の整備に関する肯定率(平成24年度65.9%)を、平成27年度には75%以上にする。
※保護者向け学校教育自己診断の教育情報の提供に関する満足度(平成24年71.8%)を、平成27年度には85%以上にする。

4 学校・家庭・地域の連携強化

- (1) 「中高連携」、「小高連携」の取組を進めるとともに「地域交流協議会」を更に充実させる。
ア 幼保小中等への生徒による出前授業の実施や地域行事等への参加協力者数や回数を増加させる。
イ 卒業生・保護者・地域の人材をボランティアとして、教育活動や部活動に活用できるような教育コミュニティをつくる。
※生徒向け学校教育自己診断における校種間の連携に対する肯定率(平成24年度46.9%)を、平成27年度には65%以上にする。
※生徒向け学校教育自己診断における地域交流に対する肯定率(平成24年度49.8%)を、平成27年度には65%以上にする。
※本校教育活動にボランティアとして関わる卒業生・保護者・地域の方の延べ支援日数を(平成24年度12日)を、平成27年度には30日以上にする。
- (2) 学校と地域をつなぐ望ましいPTA活動を展開する。
ア 公開授業や体育祭・文化祭等の学校行事への参加を積極的に支援し、学校・家庭・地域の交流を図る。
イ 親学習教材等を活用したPTA研修を実施する。
※保護者向け学校教育自己診断における学校行事への参加に対する肯定率(平成24年度67.5%)を、平成27年度には85%以上にする。
※保護者向け学校教育自己診断におけるPTA活動への参加に対する肯定率(平成24年度22.6%)を、平成27年度には50%以上にする。

【学校教育自己診断の結果と分析・学校協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析	学校協議会からの意見
<p>保護者(18.4%減)、教職員(32.1%減)の回収率が悪く、前年との数値比較が難しいので、特に変化の大きかった項目について分析する。</p> <p>【学習指導等】</p> <ul style="list-style-type: none"> 自分の考えをまとめたりする機会があるとの肯定的回答は、52.5%から60.1%にupした。 <p>これは、授業の目標を明示する、思考的場面の設定、肯定的評価など「茨西スタンダード」を踏まえた授業が多くなった結果である。また、ICTを活用した授業等の教員相互の授業見学の機会を増やすことが課題である。</p> <p>【生徒指導等】</p> <ul style="list-style-type: none"> 生徒指導方針への肯定率は、4%減少した。 <p>これは、自転車通学安全指導の強化により、前年より指導が厳しくなったと感じた生徒が微増したためと考えられる。また、遅刻者が常習化する傾向があるので、家庭と連携したきめ細やかな生徒指導の継続に努める。</p> <ul style="list-style-type: none"> 進路情報提供ができていないについては、55.4%から63.9%にupした。 <p>継続して、進路情報の発信の工夫改善に努める。</p> <p>【地域連携等】</p> <ul style="list-style-type: none"> 地域とのかかわりに関する思いは、生徒・保護者とも減少した。 <p>地域連携が広範囲になり、特定の生徒集団への負担がました。地域交流協議会の役割を精査し、生徒のボランティア活動への参加意識を高めることが課題である。</p> <p>【学校運営】</p> <ul style="list-style-type: none"> 「研修・研究に参加した成果を他の教職員に伝える機会が設けられている」と回答した教職員が60%から91%にupした。 <p>校内研修を充実させた結果と考えられるが、教科・分掌等個別の校外研修に対する成果の共有方法を確立することが必要である。</p>	<p>○第1回(5月23日開催)</p> <ul style="list-style-type: none"> 公開授業や授業アンケートなど、教育を取り巻く環境はこの10年で大きく変化をしたと言えるが、このことをどのように生かしていくかが課題である。 この学校の生徒にとって、「どのような授業が良いのか」が大切な視点であり、評価におもねり過ぎず、信念に基づいて教育をおこなってほしい。 保護者の間で話題になるのは、学校の施設整備に関するものが多い。 教科書選定に関しては、生徒のことをよく把握している学校全体で選定するのが良いと思う。次回の協議会で、実際に選定した見本を見せてもらいたい。 地域等からの意見に対する対応が、迅速かつ的確で評価も高い状況にある。 <p>○第2回(10月10日開催)</p> <ul style="list-style-type: none"> 目標値の設定は大切なことであるが、常に右肩上がりの目標設定では限界が生じると考えられる。現状として「良し」と判断できるものは、「持続できていること」を「良し」とする評価も良いのではないかなと思う。 生徒にも授業アンケートの結果を返却し、教員から説明をするなどのフィードバックを行ってみてはどうか。 日本の調査でも伝えられているように、若者の自尊感情の低さにも問題があると感じる。 今年度の取組みである「茨西バッジ」には、認められる良さがあると思う。 第三者がきちんと評価していることを、生徒(茨西生)に是非伝えてほしい。 教科書選定については、生徒の状況を良く理解し、実際に教える先生方が選んだ教科書であると同時に、検定済み教科書であることを協議会としては評価したい。 <p>○第3回(2月6日開催)</p> <ul style="list-style-type: none"> 数値だけにとらわれない方針は、良いと思う。上昇している部分は、数値を示して誉めていくことも必要である。 地域の本校生への評価は高くなっている。行事等でよく動いてくれる。吹奏楽部や清掃活動はとても良い。 「考えることとまとめる時間が増えた」との数値が上がったことは、すばらしい。

3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標	自己評価
1 確かな学力の育成	<p>(1) 生徒の確かな学力の育成と向上のために、興味・関心を引き出せるように授業の改善・充実に努める。</p> <p>ア 生徒による授業評価と保護者による授業公開のアンケート結果を効果的に活用するとともに、教員相互の授業見学を組織的に取り組み、ICTを活用した授業の目的を明確し、機器をいかに使いこなし教育効果をあげるかについても研究をすすめる。</p> <p>(2) 「使える英語プロジェクト」事業を基に、英語によるコミュニケーション能力を育成する。</p>	<p>(1)</p> <p>ア・授業アンケート(7月、12月)の結果を踏まえて、教科として、個人として授業改善に取り組む。</p> <ul style="list-style-type: none"> 各教科1回以上の研究授業、授業研究を実施する。 教員相互の授業見学を年間1回以上実施し、見学時には共通の授業観察シートを使用する。また、「茨西スタンダード」の確立に向け授業者との意見交換を行う。 ICTを活用した授業(プロジェクター、ビデオ、パワーポイント等)の実施計画を職員会議等で周知し授業見学後、情報交換の機会を設ける。 <p>(2)</p> <p>ア・「使える英語プロジェクト」事業完成年度を迎え、英語でプレゼンテーションできる英語力をつけさせる。</p> <ul style="list-style-type: none"> 授業やHRで、海外修学旅行先の情報(英文)収集に取り組む。 タブレット端末を活用した更なる授業実践に取り組む。 	<p>(1)</p> <p>ア・授業アンケートで、授業内容に興味関心をもつことができた項目の肯定率80%以上</p> <ul style="list-style-type: none"> 生徒向け学校教育自己診断の他の先生が授業を見学に来るを66%(平成24年度61.4%) 授業観察シート(写し)の提出率70% <p>(2)</p> <p>ア・英検受験者数120名以上(平成24年度102名)</p> <ul style="list-style-type: none"> 校内スピーチコンテストの実施 タブレット端末を活用30時間以上 	<p>(1)</p> <p>ア・授業アンケートで、授業内容に興味関心をもつことができた項目の肯定率は75%であった。特段に高い結果の出た授業を公開するなど授業内容の研究・改善に取り組みたい。(△)</p> <ul style="list-style-type: none"> 学校教育自己診断は、63.4%であった。(△) 教員相互の授業見学での授業観察シートの活用は不十分であるが、公開授業・研究授業の提出率は100%である。 <p>8/1に勉強合宿を実施し、26名が参加した。アンケートでは、来年もぜひ参加したい、集中して学習できた等肯定的回答ばかりであった。(○)</p> <p>(2)</p> <p>ア・修学旅行実施直後に第二回があったため2年の受験者減少し、英検受験者数73名であった。(△)</p> <ul style="list-style-type: none"> 校内スピーチコンテストは、各学年で、形態を変えて実施した。(○) タブレット端末活用時間44h(○) <p>授業力向上のため授業観察を増やし事後の面談指導の更なる充実を図る。</p>

2 志高い進路目標を実現する生徒の育成	<p>(1) 自分の将来を具体的に設計し、その実現に積極的に取り組むという将来のキャリア形成を自ら考えさせ選択させる能力を育成する。</p>	<p>ア 生徒の進路意識を向上させるため1、2年でフィールドワーク、分野別進路説明会、進路ガイダンス等の取組を一層推進する。</p> <p>イ 大学でのキャリア教育プログラムへ参加させる。</p> <p>ウ 高大連携への参加生徒の意識調査を実施する。</p> <p>エ 進学希望者に対し、教育産業による進学講習の校内実施を行い、実力養成の手がかりとさせる。</p> <p>オ 学年ごとの成績、進路希望等のデータ蓄積を更に進め、学力実態調査結果をもとに進路実現に取り組む。</p> <p>オ インターンシップ生や卒業生による学習サポーターを活用する。</p>	<p>ア 生徒向け学校教育自己診断の進路指導に関する項目の肯定率10%up(平成24年度平均70%)</p> <p>イ 延べ参加生徒40名以上</p> <p>ウ 延べ参加生徒150名以上</p> <p>エ 進路実現率(進路実績/進路希望)90%以上</p> <p>オ 延べ学習サポーター等人数20名以上</p>	<p>ア 進路指導に関する項目の肯定率は、69%(△)</p> <p>イ 延べ参加生徒23名(△)</p> <p>ウ 延べ参加生徒77名(△)</p> <p>エ 進路実現率87.9%(△)</p> <p>オ インターンシップ大学生の減少と耐震工事による施設制限等の影響で、延べ学習サポーター等人数10名であった。(△)</p> <p>高大連携によるキャリア教育および勉強合宿、自習室の活用等の取り組みを継続する。</p>
3 安全安心で魅力ある学校づくり	<p>(1) 基本的な生活習慣の確立と定着を図ると共に生徒の規範意識を醸成する。</p> <p>ア 挨拶ができる、遅刻をしない、通学マナーの向上など基本的な生活習慣の確立と規範意識の醸成に努める。</p> <p>(2) 生徒会活動・ホームルーム活動・部活動・学校行事等の充実を図り、自己有用感の醸成やコミュニケーション能力の育成を図る。</p> <p>(3) 学習環境の整備に努めるとともに、交通安全指導・通学マナーの更なる充実を図る。</p> <p>ア 耐震工事(平成25、26年)に伴う校舎の使用制限に対して、生徒が安全で安心できる学習環境の維持に努める。</p> <p>イ 生徒・保護者・地域住民が連携した交通安全指導を関係機関の協力の下、年1回実施する。</p>	<p>(1)</p> <p>ア 挨拶ができる生徒、部活動等を取り上げて褒めるのは、もちろんの事、玄関前モニターに生き生きとした生徒の様子を流す。</p> <p>・遅刻者減少のために段階的に指導を行う。</p> <p>・学期に1回以上「遅刻ゼロ週間」を設け、遅刻しない意識を涵養する。</p> <p>(2)</p> <p>ア 始業式、終業式、体育祭、文化祭等の開催時に校歌斉唱を行い母校愛を醸成する。</p> <p>イ 「茨西 PRIDE バッジ」を作り、顕著な活躍をした生徒に授与する。</p> <p>ウ 人権ホームルーム等を通して、個々の生徒が自尊感情を高めるとともに、他者を思いやる気持ちを育む。</p> <p>エ 心の教育の一環として、ボランティア活動の更なる充実に取り組む。</p> <p>(3)</p> <p>ア 耐震工事の実施に伴う、学校環境の安全確保に努める。</p> <p>・自習室の更なる整備に努める。</p> <p>・職員室の整理整頓、教室棟のフロア整備に取り組み休憩時間や放課後等に生徒が気軽に学習相談できるように努める。</p> <p>イ 関係機関と協力し、交通安全の体験講習会を実施する。</p> <p>ウ 学習や学校生活における概要や留意点等を解説した「茨西ハンドブック」を作成する。</p> <p>エ 日々の清掃活動に対し教職員が規範を示し、校内美化に対する更なる向上に努める。</p>	<p>(1)</p> <p>ア 生徒向け学校教育自己診断の生徒指導に関する肯定率10%up(平成24年度57.5%)</p> <p>・遅刻者数を5千人台(平成24年度6,637人)</p> <p>(2)</p> <p>ア 学校生活アンケートにより検証</p> <p>イ 5名程度をめぐりに授与</p> <p>ウ 生徒向け学校教育自己診断の教育相談に関する満足度60%(平成24年度51.1%)</p> <p>(3)</p> <p>ア 安全点検年3回以上実施</p> <p>・生徒向け学校教育自己診断の学習環境の整備に関する肯定率70%(平成24年度65.9%)</p> <p>ウ 保護者向け学校教育自己診断の教育情報の提供に関する満足度80%(平成24年71.8%)</p>	<p>(1)</p> <p>ア 生徒指導に関する肯定率は、前年より4%減(△)</p> <p>・遅刻者数12月末5,261人(○)</p> <p>(2)</p> <p>ア 学校生活が楽しいとの回答が74.4%(○)</p> <p>イ 6名に授与(○)</p> <p>ウ 耐震工事による施設制限等の影響で、教育相談に関する満足度は、前年より約10%ダウンの40.7%(△)</p> <p>(3)</p> <p>ア 点検内容が具体的にわかるよう報告書式を変更し、学校環境の保全に取り組んだ。(○)</p> <p>・学習環境の整備に関する肯定率は、前年並みの65.5%(○)</p> <p>イ スタントマンによる自転車交通安全教室を9/12に実施(○)</p> <p>ウ 教育情報の提供に関する満足度は、前年より約4%upの75.9%(△)</p> <p>耐震関係の大規模改修が3年間(H24, 25, 26)続き、行事の制限、教室の変更、施設の度重なる変更および制限等で、生徒のストレスが溜まっている。安全安心な学習環境整備を継続していくことが課題である。</p>

<p>4 学 校 ・ 家 庭 ・ 地 域 の 連 携 強 化</p>	<p>(1)「中高連携」、「小高連携」の取組を進めるとともに「地域交流協議会」を更に充実させる。</p> <p>ア 幼保小中等への生徒による出前授業の実施や地域行事等への参加協力者数や回数を増加させる。</p> <p>イ 卒業生・保護者・地域の人材をサポートとして、教育活動や部活動に活用できるような教育コミュニティをつくる。</p> <p>(2) 学校と地域をつなぐ望ましい PTA 活動を展開する。</p> <p>ア 公開授業や体育祭・文化祭等の学校行事への参加を積極的に支援し、学校・家庭・地域の交流を図る。</p> <p>イ 親学習教材等を活用した PTA 研修を実施する。</p>	<p>(1) ア・「発達と保育」の子育てネットワークとの連携授業を公開する。</p> <p>・近隣の小中学校への出前授業の実施。</p> <p>イ 「地域交流協議会」や学校ホームページ等を通じて、図書館サポーター・学習支援や部活動支援に卒業生・保護者・地域の人材を活用する。</p> <p>(2) ア・メルマガ、学校ホームページ、地域の広報誌などを活用し学校教育活動の情報発信を行う。</p> <p>・「IBANISHI NEWS」を自治会等の広報を通じて配布する。</p> <p>イ・PTA 対象校長講話（子育て論）の実施</p> <p>・家庭、地域、卒業生をパネラーとした、子育て等に関するパネルディスカッションを実施する。</p> <p>・PTA 便りを活用し、各委員会の取組を紹介するとともに PTA 協議会の情報も周知する。</p>	<p>(1) ア・生徒向け学校教育自己診断における校種間の連携に対する肯定率 50%以上(平成 24 年度 46.9%)</p> <p>イ 延べ支援日数 20 日以上</p> <p>(2) ア・保護者向け学校教育自己診断における学校ホームページを良く見る 50%(平成 24 年度 28%)</p> <p>・地域広報誌への教育活動の掲載</p> <p>イ・保護者向け学校教育自己診断における PTA 活動への参加に対する肯定率 30%以上(平成 24 年度 22.6%)</p> <p>・PTA 実行委員会、学校協議会、地域交流協議会等での肯定的意見</p>	<p>(1) ア・校種間の連携に対する肯定率 35.4%であった。学校教育自己診断は、全生徒が回答ため、連携参加者数を指標にすべきであった。(△)</p> <p>イ 延べ支援日数 35 日 (○)</p> <p>(2) ア・学校ホームページを良く見るは、前年並みの 28%(○)</p> <p>・学校協議会や地域交流協議会で、生徒の地域行事への参加に対する称賛を頂いている。(○)</p> <p>イ・PTA 対象校長講話は実施できなかった。(×)</p> <p>・PTA 活動への参加に対する肯定率 30.5%(○)</p> <p>地域交流協議会の役割を精査し、生徒のボランティア活動への参加意識を高めることが課題である。</p>
--	---	---	---	---